

# 農業



平成26年2月号  
会誌 No. 1582

## 目次

### 巻頭言

耕しはじめた都市民たち……………進士五十八 3

### 論 壇

家主か、店子か……………生源寺真一 4

### 中央農事講演会

今、日本の農業・農村を考える……………田中 耕司 6

アジア稲作圏の「風土」

東アジアに共通する農業技術の基盤と特徴

東アジアから見た日本の農業・農村

経済のグローバル化と農業

東アジアの「価値創造産業」「公共財」としての農業

### 農業懇話会

水稲直播栽培はどこまできたか……………下坪 訓次 28

水稲直播栽培のメリットと問題点

水稲直播栽培面積の推移等

注目されている各種直播栽培の技術要因

湛水土壤中直播栽培（カルパー直播）

不耕起 V 溝直播栽培  
鉄コーティング直播栽培  
プラウ耕・グレーンドリル播種体系による水稲乾田直播  
普及・拡大に向けて  
質疑応答

### 世界の農業は今

オイルパームは悪者か？……………杉野 智英 47  
－インドネシアの生産現場から－

### 東京農業大学収穫祭から（Ⅱ）

世界の農村に学ぶ……………岡田 茜 52  
都市からの距離にみるグリーンツーリズムの地域への適性

農政情報…………… 57

大日本農会だより…………… 58

#### 表紙写真説明

#### 冬の千枚田（京都府与謝郡伊根町新井）

冬の日本海は、厚い雲におおわれ、昼間でも薄暗くなる。風も強く、降った雪も、吹き飛ばしてしまう。千枚田は、京都府の北部、丹後半島の北端に位置する伊根町新井崎（にいさき）地区にあり、「新井の千枚田」として有名である。若狭湾に面した海岸線から山の斜面まで急斜面に階段状に作られた棚田であり、その数が千枚あるといわれていることから、この名前がついている。

斜面が急で畦も狭いため、機械を入れることもできず、ほとんどの作業が人の手で行われている。そのため後継者も少なく、減反政策などで、手間のかかる棚田は段々とその数を減らしている。この美しい景色を残そうと「伊根と新井の千枚田を愛する会」がつくられ、棚田の保全のため、地元の役場や農協・漁協と協力してお米作りをし、少しずつ増やす活動が行われている。

（写真提供：一般社団法人地域環境資源センター）